

令和6年度 八王子市立浅川小学校 学校経営報告

校長 藺田 賢志

I 今年度の取り組みと学校評価

今年度の学校教育における特色ある取組は、5，6年生の教科担任制の導入である。

東京都の教科担任制等推進校として指定され、全都に先駆けて中学校籍の理科専科教員を加配で任用し、中学校に近い形の指導体制で指導を行ってきた。

今回、保護者対象の学校評価において、15番目の質問項目で教科担任制の導入への意見を伺った。1，2回の両方の学校評価で90%以上の肯定的な評価をいただいた。同様の質問を児童にも行ったところ、1，2回の両方の学校評価で85%以上の肯定的な評価となり、2回目のほうが若干数値の上昇が見られ、定着も図られている。

全般的な学校評価の考察としては、昨年度と比較しても全体的に数値は横ばいもしくは上がってきている。しかしながら、「学習環境の整備や清掃」のみ数値が下がっている。保護者からの意見欄でも、学校の清掃状況に関するご意見をいただいております、対策を求める声が上がっている。

地域と共にある浅川小学校として、さらに地域、保護者、児童、教職員に愛される学校となるよう、取り組んでいきたい。

II 令和6年度における個別の取り組みの評価

1 確かな学力の育成（教科担任制・GIGAスクール構想に対応した教育活動の構築）

具体的方策	評価項目・担当
① 教科担任制における、各種管理組織と実施上の課題や分析検討会議	① ○教科担任制担当教諭が時間割等の運用を適切に進行した。 △時間割の運用ができる教員の育成が課題である。 ○教科担任制推進委員会を実施し、高学年教員の学習指導力の向上を図ることができた。
② GIGA部の校内組織への常設、全学年の系統性に沿ったICT教育活動	② ○GIGA部主任が組織的に働きかけ適切に運営できた。 ○高学年で十分にICTを活用できるスキルが身についた。
③ 教科教育や特別活動におけるICTの活用	③ ○GIGA部によるミニ研修を確実に実施できた。 ○ICTを活用した授業観察を行い、特別活動等でも活用が定着していることを確認できた。 △環境整備は現状維持となった。
④ 個別最適化と協働学習を意識した授業の実施	④ ○授業中にICTの活用は進み、個々の意見の吸い上げや考え方を表すことに活用できた。 △全部の学級で効果的に活用するには至らなかった。 ○校内研究では個々の学習の見取りや主体的な学びについて講師から学ぶことができた。 ○グループによる他学年への発表など、協働的に学ぶ活動を推進することができた。
※ベーシックドリルや習得目標問題を「まんてんぐタイム」などに例年通り取り組むことができた。	

2 系統性や環境等を考慮した特色ある郷土学習の実践

具体的方策	評価項目・担当
① 郷土愛を育む「郷土学習」の計画的な実施	① ② ○高尾山を教材とした体験学習や調べ学習を全校で系統的に実施することができた。次年度、5年生のSDGsに関わる活動場所の検討が必要である。
② 長田養蚕、機織り伝承会など、地域の方との連携を取り入れた、人となが教育活動	① ② ○機織り伝承会、八王子の語り部、長田養蚕やエコ広場、栗山保存会、社協、保幼小連携、地域の方々など、多大なご協力をいただき活動が充実した。
③環境教育(各教科等及び郷土学習)の計画的な実施	③ ○計画的に実施することができた。
※日本遺産である高尾山を中心とした地域学習の充実 各学年「郷土(地域)学習」の充実と学校運営協議会、学校支援コーディネーターを窓口とする地域人材や関係機関と連携し、活動を進めることができた。	

3 児童の恒常的な人間関係の醸成

具体的方策	評価項目・担当
① 人権教育の充実のため、道徳教育・いじめ対策・教育相談活動・特別支援教育の充実	① ○人権教育・道徳の指導計画に沿った学年全体での取組の計画的運営ができた。 ○生活指導夕会や各学級活動等を活かして情報共有や支持的な学級風土をつくろうとしている。 △組織的な対応でいじめ重大事態が起きないように努めているが継続している課題もあり、丁寧で分かりやすい対応を心がけて取り組んでいく。 ○アンケートを年3回実施し、QUを活用した。また、SCや学年団での児童の共通理解を深めている。 ○外部講師や外部組織を活用し、教育相談・特別支援教育の充実を図り、不登校傾向にある児童や不安を抱えている児童の対応として担任・専科・養護・特別支援教室の教員やSCやSSWと連携して組織的に取り組んだ。教科担任制による、学年団の強みも活かすことができた。
② 自己実現・人間関係形成・社会参画を核とした特別活動の充実	② ○縦割り班活動及び委員会、クラブ活動など特活主任を中心に推進し、教員の自己申告でも学級会の取り組みを確認し、充実を図ることができた。 △時数や働き方改革のため全校遠足を無くした。

4 地域・家庭との連携（信頼される学校づくり）

具体的方策	評価項目・担当
① 学校だよりを始めとした諸連絡の Home&School の活用	① ○Home&School で不審者情報など、いち早く正確な配信を行うことができた。 ○Home&School で連絡がつかない場合の組織的な対応もできるようになってきた。
② 保護者会・学校公開・アンケート等のオンライン化の実施	② △保護者会での動画ファイルでの対応を行った。その他の連絡等で活用することはなかった。 △学校評価の ICT 活用は定着し、評価の集計や転記も簡略化したが、提出率の低下が顕著である。
③ ゲストティーチャーや授業サポートの協力の依頼	③ ④ ○保護者の方の協力が得られ、教育活動が充実した。学年 PTA の積極的な活動もあり、各学年で行う安全教育や日本遺産学習も充実した。
④ 学校運営協議会、PTA をはじめ、各組織と連携した学校運営	④ ○学校運営協議会の体制が整っており、地域や家庭との連携においても、学校への協力を惜しみなく提供いただき、学校運営の充実が図られている。
その他の地域に根差した連携 ○あいさつ運動を青少対と協力して実施し、校内でも児童が率先してあいさつ週間として取り組んだ。 △危険箇所マップを活用した通学路点検 夏季休業中に確認等を行う必要がある。 ○通学路の見回り（安全ボランティアの方の確認、外部評価） 月 1 回程度実施できた。 ○PTA、町会行事への参画及び参加、浅川スポーツクラブとの連携は適宜実施できた。	

5 SDG s の視点を取り入れた教育活動の充実

具体的方策	評価項目・担当
① ユネスコスクールキャンディデート校として、取組を深める	① ○ユネスコスクールキャンディデート校としての報告等を含め、適切に対応することができた。 △ユネスコスクールの正規申請への対応が課題。
② SDG s 給食の実施	② ○食育や保健指導の充実を例年通り実施し、SDG s 教育の一端を担った。
③ 環境改善事業から考える教育	③ △八王子未来デザイン 2040 に基づく LED 化、水道の自動水栓は教材となったが、太陽光は未設置となった。次年度設置となった場合に、活用していく。